□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名　グループホーム　のぞみ　※

日付　平成18年3月31日
特定非営利活動法人
評価機関名　ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験15年
評価調査員　老人保健施設介護実務経験5年、居宅支援事業所介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

「今日は、焼そばよ。皆で焼いてよ！！」とテーブル上に大きなホットプレートと「そば」「キャベツ」「玉ねぎ」そして「豚肉」が置かれた。周りには女性陣が取り囲んでいる。「最初に、何から焼く？」「やっぱり油ひかにゃ」と一人の声に「油持ってくる」と職員が油を少し注ぐ。「○○さん、焼いてくれる」と長い竹箸を渡し、○○さん、油拭いて」と折りたたんだペーパーを箸の先にはさむと、○○さん、鉄板の上の油をまんべんなく伸ばしていく。「最初は何を焼く？」しばらくして「やっぱりこれやろ」と指差すのは細かく切られた豚肉。「そうね、これ入れるよ」一度に入れられた豚を細かく広げながら焼いていく。「次何を入れる？」と職員の声に「まだ赤いところがあるよ。もっと焼かにや」と○○さんは豚肉をよく混ぜながら「よ～し」と云う。「何にしようか？」「次は野菜じゃな」既に下拵えされたキャベツと玉ねぎを入れて、しばらく混ぜながら○○さんは根気よく焼いている。「○○さん、大丈夫。もう少しお願いネ。今度はそばを入れるよ」しっかり焼いてね」もくもくとそばを焼く。肉や野菜とも混ぜる。もう○○さんも周りの人も一生懸命。焼く人も見る人々も一体である。「味付けはソースにする？塩とレモンでも美味しいよ」と職員が選択のヒントを出す。「やっぱりソースだわ」そうやそうや」とソースの味付けに決まり、職員がソースをかける。ぷーんと良い臭いが漂う。「さあ、△△さん味を見て」と小皿で差し出す。もう一寸やなあ」・・・・4人の利用者の味見で、焼そばが完成した。

この焼そばの調理の道程が、このグループホームの利用者と職員の間柄とケアの本質を表わしている。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

①グループホームの「たより」を、3つのグループホームと共同してでも定期的に発行して、ホームでの様子を家族に知らせてあげて欲しい。家族が何かを感じてくれる筈である。

②一つ一つのグループホーム単体では、グループホームから利用者が外に出る事は不可能であり、玄関も施錠しておかねばならないが、3つのグループホームの玄関周りを外柵で覆い、3つのグループホームの行き来が自由に出来るようなことは考えられないだろうか。全部2階部分が多いから無理かなあ。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

今まで経験してきたことから能力を引き出す、家庭でして来たことや得意だったおとを忘れないように日常の生活の中で取り入れていく。そして毎日の生活に役割分担をしてもらって、その上で残存能力の向上に努める。

このグループホームのケアの目標であり、このグループホームの実態が、冒頭で紹介した「焼そばの調理のプロセス」にあると確信した。

Ⅱ生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

決して広いとか、便利だとか言えるリビングルームやキッチンではない。皆がテーブルに座ったら、余裕すらないスペースだけど、そこにいる利用者が職員の笑顔や笑い声に接すると、その不便さや窮屈さを感じさせない。これが、ここにいる人間から発する家庭らしさであろう。

各居室には、トイレと簡易流し台（洗面台に使用）があり、利用者にとっては便利である。居室は1階と2階に別れていて、見守りや誘導に不便であるが、職員のケアでカバーしている。

Ⅲケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援		○

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

利用者は殆んどの時間をリビングルームで過ごす人が多い。狭くても皆と一緒が良いのだろう。料理や片付けは勿論、風船バレー、カラオケ、カスタネットなどの楽器も使って歌を歌ったりして、色々な事をして遊ぶ。

諺の上句を言って、それを書いてみる。次に下句を読む。そして書く。次に意味を皆で話す。塗り絵もする。

身体の体操、口腔体操を10分余り毎日している。余り外には出掛ける事が少なくなったが、このリビングルームで、よく動く、よく頭を働かせる、よく笑う、よく話す、そしてよく働く、これが皆の生活である。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		○
33	家族への日常の様子に関する情報提供		○
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元		○

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

近接して3つのグループホームがあるが、このグループホームが最初に出来た。そして一番狭いホームであるが、このホームの良さは利用者と職員の人間の良さが全てをカバーしているのだろう。

全体であるが、消防避難訓練もしていた。2階から下への誘導も実際に訓練したようであるが、実際には大変だろうと思う。しかし、一つ一つケアや訓練を積み重ねて、利用者の安心と安全に気を配り、サービスの質の向上に努めている。

唯、家族の人がもう少し積極的に訪問したり、利用者と一緒に過ごす機会をつくるためには、どうすれば良いか辛抱強く工夫して欲しい。